文明の都市

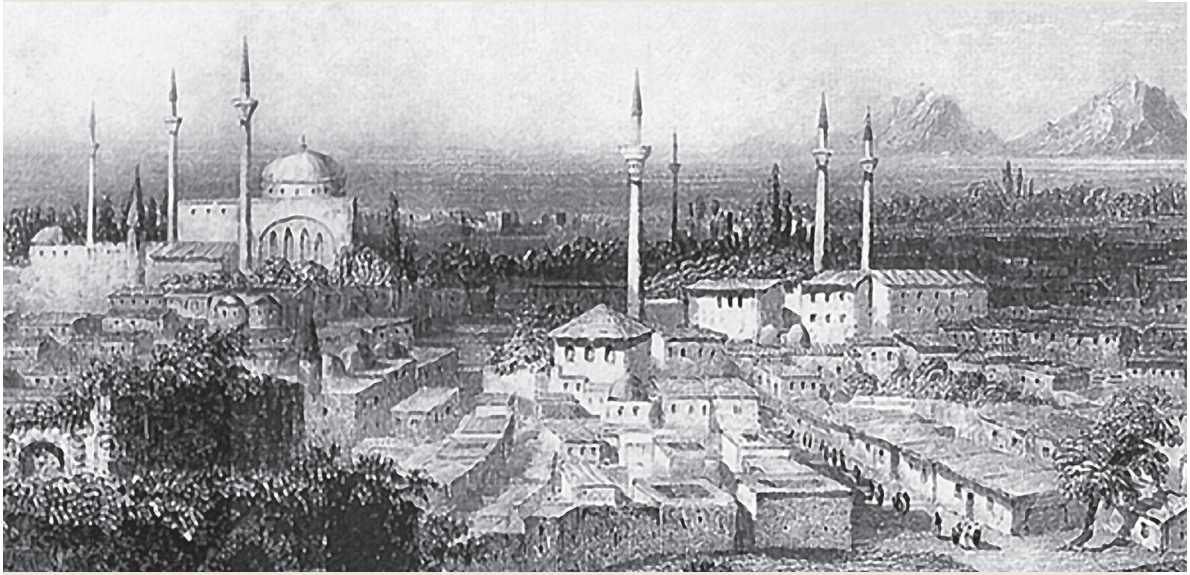
コンヤ

Konya

愛の熱意でできている、コンヤは。
それはコンヤでは天国から吹いてくる
かのような風が吹く理由なのだ。

シェミ

トルコ共和国コンヤ県知事府
県文化観光局



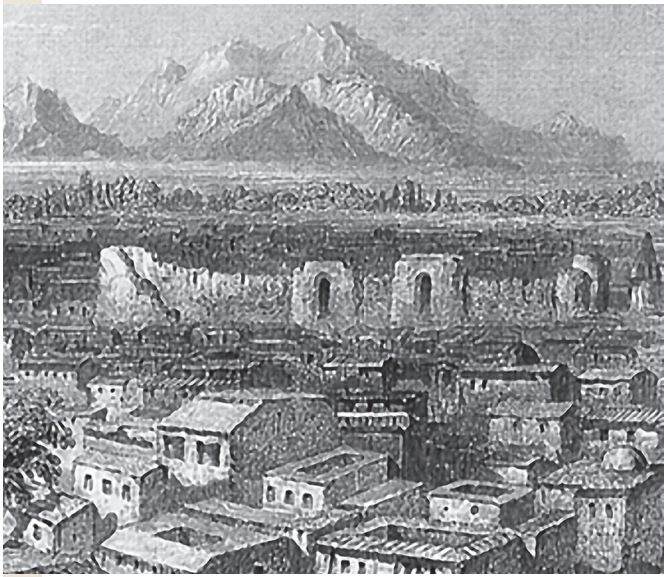
コンヤ、愛の都市．．．

メヴラーナが「これからコンヤの街に『聖人たちの街』という名を与えました。この街で生まれた者は誰でも聖人になりました。バハエッディン・ヴェレドの聖なる身体と子孫がこの街にいるかぎり、この街で刀は交わえない。」と言った安全な街、コンヤ。

メヴラーナとともに、「博愛の中の霊廟で優雅さに包まれた」サドゥレッディン・コネヴィ、ジェラーレッディン・カラタイ、サーヒビ・アタ・ファフレッディン・アリ、そしてベドゥレッディン・ムスリヒといった心の中のスルタンたち、そして政府要人の、セルジューク朝の首都であっただけでなく、博愛と英知の源、学問と文明の中心である都市、コンヤ．．．

卓越した能力を持ち、「清い魂、輝く噴水のように世界中にあふれた公正さがありました。宝物庫を自分自身が検査し、大げさすぎたり、控えめすぎたりすることはなかった．．．精神を高めるために夜のある時間以降は寝床にととまらず、夜も昼も正義と国のために費やした。」と伝えられるスルタン、アラアッディン・ケイクバードの世界に方向を与えた首都、コンヤ．．．

この都市は、ときには詩人レヴニ、マトゥラック（こん棒を使ったスポーツ）名人のナスフの細密画に、画家ホジャ・アリ・ルザの素晴らしい風景画に、ときにはシェミ、アリフ・ニハット・アスヤ、ベキル・スゥトゥク・エルドアン、ヤヴズ・ビュレント・バーキレルの詩に、民謡に、唄に、五つの街とコンヤ紀行といった都市を説明した本にも登場しています。



コンヤの歴史

コンヤは中央アナトリア地方の中央に位置し、広大な面積と平地を有しています。

国内最大の面積を有する県であるコンヤは、東のアクサライとニーデ、南東のカラマンとアンタルヤ、西のウスパルタとアフヨンカラヒサル、北西のエスキシェヒル、北と東北のアンカラ県に囲まれています。県のコード番号は42、人口2.108.808人、面積40.451 km2はとなっています。

コンヤ及びその周辺には、先史時代から人間が居住していました。この時代には、新石器時代、金石併用時代、初期青銅器時代の文化が見られます。

この時代の集落であったコンヤ県内の場所に複数の古墳があります。約9.000－7.500年前（新石器時代）の物が、チャタルホユックの考古学的発掘調査で出土しました。

今日、コンヤのメラム郡にあるカラホユック

には、ヒッタイトの集落が見つかっています。長年の考古学的発掘調査で、この時代を解き明かす品物が出土しています。

アナトリアのヒッタイト支配を終わらせたフリギア人たちは、トラキア地方からアナトリアへ移動してきた部族です。アラアッディンの丘とカラプナル、グジュクシュラ、スズマといった場所から発掘された品物は、紀元前7世紀のものです。そしてアレキサンダー大王の侵略も受けました。その後アナトリアはローマ帝国の支配下に入り、コンヤはイコニウムという名で存続しました。（紀元前25年）

アンタクヤからアナトリアに移ったキリスト教の聖人である聖パウロは、アンティオキア（ヤルヴァチ）へ、その後イコニウム（コンヤ）に来ました。ビザンツ時代の重要な街には、ハトゥンサライ、リストラーデルベシ、ラオディカ（ラディック）、そしてスィッレが挙げられます。イスラム教がアナトリアに広まるにつれ、ビザンツ（イスタンブル）帝国にアラブの侵攻が始まりました。ウマイヤ朝、アッバース朝は、コンヤを通って襲撃しました。

1071年のマラズギルトの戦い以降、コンヤを含むアナトリアの大部分は、ビザンツ帝国の支配を離れてセルジューク朝の支配下に入りました

コンヤは、クタルムシュオウル・スレイマン・シャーによって1070年代中頃に征服され、1080年にアナトリアのセルジューク朝の中心地はイズニックに移されました。クルチアスラン1世は、1097年にコンヤに遷都し、コンヤはこのときから1308年までずっとアナトリア・セルジューク朝の首都でした。

セルジューク朝の首都コンヤから、スルタンの勅令でウチ・ベイ（キリスト教

とイスラム教の狭間の地域で戦う諸侯）の位がオスマン・ベイに授けられ、金色の旗と軍楽隊が贈られました。このようにして、セルジューク朝のウチ・ベイから、オスマン帝国が生まれ、科学、文化、芸術の分野など、すべての分野にコンヤが影響を及ぼしました。

アナトリア・セルジューク朝が歴史の舞台から姿を消してから、カラマンオウルラルの支配下に入ったコンヤは、1466年にファーティフ（征服者）スルタン・メフメットによってカラマンオウルラル支配に終止符が打たれ、オスマン朝の最重要サンジャック（統治単位）のうちのひとつになりました。王子たちの街として知られているコンヤですが、ここに知事として赴任していた7人の王子のうち、セリム2世だけがスルタンの座に就くことが出来ました。オスマン朝スルタンのヤヴズ・スルタン・セリムのエジプト、イラン遠征の際に、スレイマン大帝はイラン遠征、スルタン・ムラッド4世はバグダット遠征の際に、コンヤに滞在しました。

第一次世界大戦後の祖国解放戦争でも最も戦死者を出した県であるコンヤは、物的にも精神的にも義務を果たし、軍隊の需要をまかなって、前線に送っていました。また、前線から送られてくる負傷者や病人の治療もコンヤで行われました。西部前線の作戦本部はコンヤ県のアクシェヒルに置かれ、1年間の間ここから指令が出され、軍隊が送られていました。

セルジューク朝の首都であり、学問、文化、芸術の中心地でもあった、共和国時代に入ってからも各分野で急速な発展を遂げているコンヤは、遺跡や文化的構成、そして美しい自然の面でも、野外博物館の趣を持つ都市です。

メヴラーナ博物館

メヴラーナ・ジェラーレッディン・ルーミーの父親のスルタヌル - ウレマー（学者の中のスルタン）、バハエッディン・ヴェレドに、セルジューク朝のスルタン、アラアッデイン・ケイクバードが贈ったバラ庭園に、1273年12月17日に亡くなったメブラーナの墓があり、その上に1274年に霊廟が、1396年にはタイルで覆われた円錐形の屋根がかけられました。アナトリア・セルジューク朝時代に作られたセマーハーネ（回旋場）と、礼拝所が手狭になってきたため、16世紀のセリム2世の時代に新しいセマーハーネと礼拝所が設けられ、ムラッド3世の時代にマトゥバフ - イ・シェリフ（厨房）とデデギャン（修道僧）の小部屋が増築されて複合施設となり、デルギャフ（イスラムの修道場）の中心地として1925年まで存続しました。1925年に施行された新制度でテッケやザーヴィエ（イスラムの修道、修行場）が廃止された後、1927年にコンヤ文化財博物館として開館し、1954年にはメヴラーナ博物館と改名しました。

博物館にはメヴラーナとメヴレヴィ教団の品物や手書きの書、書板、ランプや楽器などが展示されています。博物館にある専門書の図書館は、1854年に長老であるメフメット・サイッド・ヘムデム・チェレビによって設立されました。図書館にはセルジューク朝、カラマンオウルラル、オスマン朝時代の2756巻からなる蔵書と、4000以上もの手書きの書があります。蔵書はすべてＣＤにされており、研究者たちが利用できるようになっています。

メヴラーナ博物館には週休日はなく、毎日会館しています。

カラタイ・タイル博物館（カラタイ神学校）

タイル博物館として利用されているカラタイ神学校は、セルジューク朝スルタンのイッゼッディン・ケイキャヴス2世の時代に、エミル・ジェラーレッディン・カラタイによって1251年に建設されました。神学校の内部は、モザイクやプレート状のタイルで覆われています。建築家はムハッメッド・ビン・ハヴランであると言われています。

神学校は、セルジューク朝時代にハディース（予言者言行録）や解釈学を学ばせるために「閉鎖的中庭形式神学校」形式で、本体の壁が石造、ドームやアーチ型天井には日干し煉瓦で建設されています。スィッレ産の石を使った平屋の建物の東側には、ギョク・メルメルという青っぽい大理石や、白い大理石でできた、セルジューク朝石工芸術の集大成である入り口の門があります。門の上部には神学校の建設に関する石碑が、その他の表面にはコーランの中から選ばれたいくつかの文章やハディースが浮き彫りにされています。神学校の南西には、ジェラーレッディン・カラタイの霊廟があります。

アナトリア・セルジューク朝時代のタイル工芸の面でも重要なカラタイ神学校は、1955年に「タイル作品博物館」として開館しました。博物館にはセルジューク朝、諸侯国時代、オスマン朝時代のタイルやセラミックの中でも、特にクバッドーアーバード宮殿のタイル、石膏装飾、飾り棚、皿、ランプが展示されている。博物館は月曜の休館日以外は開館しています。

インジェ・ミナレ・石工、木工作品博物館（インジェ・ミナレ・ダーリュルーハディースィ）

セルジューク朝スルタン、イッゼッディン・ケイキャヴスの時代に、宰相のサーヒブ・アタ・ファフレッディン・アリによって、ハディース学を教えるためにイスラム歴の663年（西暦1264年）に建設されました。建築を担当したのはケルック・ビン・アブドゥッラーです。

ダーリュル・ハディースは、セルジューク朝時代の「閉鎖的中庭形式神学校」で、並んだ部屋の間に一か所だけエイヴァンが（部屋と部屋の間の空間）設けられています。東側にある帝王の門は、セルジューク朝石工芸術の最高峰です。

インジェ・ミナレリ神学校では、19世紀末まで活動が行われていました。1876年-1899年に補修が行われていることがわかったいます。共和国時代の1936年にも補修が始まり、1956年に「石工、木工作品博物館」として開館しました。併設の礼拝所では、「ハディースの話会」が行われています。

博物館ではセルジューク朝やカラオスマンオウル統治時代の石工作品や、大理石レリーフの石碑、コンヤ城にあったレリーフ、様々な木材を削って作られた幾何学や植物モチーフで装飾された戸や窓の扉、天井装飾、大理石に彫り込まれた墓石や石棺が展示されています。

コンヤに首都を置いていたセルジューク朝のシンボルであった、双頭の鷲と羽根が生えた天使の作品の中でも最大で最高のものが展示されているこの博物館は、月曜日以外毎日開館しています。

スルチャル神学校

スルチャル神学校は、1242年にベドレッディン・ムスリフが、イスラム法の学び舎として建てました。「開放的中庭形式の神学校」として建設され、大エイヴァン（部屋と部屋の間の空間）の左右にはドーム天井の冬用の教室がしつらえられています。この大エイヴァンの部分は今日でもかなりよく保存されていますが、アーチの地上までのびている6角形のタイルと、上部のタイルはだいぶはがれてしまっています。エイヴァンは中庭と3段の階段で区切られています。正面は様々なタイルやコーランの文章で装飾されており、アーチ上にはめこまれた6角形の建築的石碑には、この建物がトゥスル・メフメッド親方によって設計されたことが書かれています。文章が書かれた帯状のタイルがエイヴァンの正面を囲み、南側の壁にはタイルがはがれたミフラーブ（メッカの方向を示す窪み）があります。スルチャル神学校のタイルは、タイル芸術の面でも重要な位置を占めています。

スルチャル神学校の上階は現在、測量・遺跡局が使用しており、下階では「ハディースの話会」が行われています。

考古学博物館

1962年に開館し、新石器時代、初期青銅器時代、ヒッタイト、フリギア、ギリシャ、ローマ、ビザンツ時代の作品が展示されています。チャタルホユック、ジャンハサン、エルババ、スズマ、カラホユック、アラアッディンの丘の発掘調査での出土品が展示されているこの博物館は、月曜日以外の毎日開館しています。

アタテュルク博物館

1912年に建てられたこの家は、1928年にコンヤ県民がアタテュルクに贈ったものです。1964年に博物館となり、アタテュルクが着ていた服や品物、祖国解放戦争におけるコンヤの位置を説明する資料、写真、新聞などが展示されています。街の中心地にあるこの博物館は、19世紀の建築を代表する建築です。

博物館は月曜日以外の毎日開館しています。

民俗学博物館

1974年にラレンデ大通りにオープンしたこの博物館には、コンヤ地方の服、手芸品、帯、手編みの小銭入れ、銅製品、武器といった、民俗学的に重要な作品が展示されています。博物館の絨毯展示コーナーでは、セルジューク朝とオスマン朝時代の絨毯やキリムを見ることができます。

博物館は月曜日以外の毎日開館しています。

コユンオウル市営博物館・図書館

コンヤ市役所に属する博物館と図書館です。古い歴史を持つコンヤ民家を利用した博物館と民家は、数多くのコレクションを有しています。広い敷地内の3000㎡の展示面積を持つ博物館の地上階にはアナトリア文明に属する考古学的な出土品、金貨、イスラム書道の展示の他、自然史コーナー、テーマ別の展示もあります。2階には民俗学的作品、絨毯、キリム、テスビヒ（イスラムの数珠）コレクションの他、手書きの書など35,000巻にも上る蔵書を誇る図書室も併設されています。

博物館は月曜日以外の毎日開館しています。

コンヤ地域書作品局図書館

コンヤ地域書作品局図書館は、わが国の様々な図書館にあった貴重な書作品を集め、これらの保全、修復を行い、研究者に利用してもらう目的で、1984年7月20日に開館しました。

図書館は設立以来、国内の様々な場所にある72の図書館から書作品や希少な印刷物を譲渡の形で移送してきました。また、購入や寄付の形でもコレクションを増やしています。

3000㎡の合計利用面積を有する図書館には手書きの書作品があり、火災や盗難の他、地震などの自然災害対策として、金庫形式になった4つの特別倉庫で保管されています。

地域書作品局図書館のコレクションには、譲渡、寄付、購入の形で入手され、現在も記録、整理が続けられている、合計115,000点もの作品があります。多種多言語（オスマン語、アラビア語、ペル

シャ語など）で書かれた作品があります。この図書館は、蔵書の数や質の面でも、国内外の研究者にとって重要な存在となっています。

手書きの書作品のすべてと、希少な印刷物の大部分はデジタル化されています。研究者は図書館のコンピューターでデジタルカタログから検索をし、必要な作品をCDにして入手することが可能です。また、図書館に足を運ばずに、電話やE-メールといった通信手段で、作品のデジタル化された資料を入手することもできます。

破損した作品の保全、修復を担当する、修復研究センターも設立されています。このセンターでは、修繕の必要がある作品が、巻末、病理学の部署でオリジナルに合わせて保全、修復されています。

この図書館は、アナトリア最大のコレクションを有しています。イマーム・ガーズィ、イマーム・アーザム、サドゥレッディン・コネヴィ、イブニ・アラビー、メヴラーナなどの偉大な学者たちや、スーフィー（神秘主義）の作品は、注目に値するものです。医療関係の書に関しても、世界最大のコレクションを有しています。

図書館にはこのコレクション以外にデジタル環境になっているのは以下の通りです。ドゥバイ・ジュマー・エルマジッド文化センター（世界の97の図書館の作品）、ロドス・ハフズ・アフメット図書館、医学書コレクション、ファーティフ大学シェフィック・ジャン・コレクション、サーミ・トクギョズ・コレクション。

図書館は以前文化観光省、出版物総局に属する形で設立されましたが、トルコ書作品機関府の設立と任務に関する第6093号の法により、トルコ書作品機関府に属する形で、書作品地域局の下で組織されました。ディヤルバクルのズィヤ・ギョクアルプ、カイセリのラシッド・エフェンディ、マニサの書作品図書館、ユスフアー図書館は、コンヤ地域書作品局の管轄に入りました。

ユスフ・アー図書館

スルタン・セリム・モスクの西側に隣接し、現在は希少な書や古文字の作品を有し、学術的研究が行われている重要な図書館です。ユスフ・アーは、造幣局長でスルタン・セリム3世の母君であるミフリシャ・スルタンの侍従であった時代に、この図書館を設立しました。建築家はメフメッド・サドゥックです。建物の外部と内部にある石碑から、1795年1月17日（1209年太陰月の第6月の25日）に建てられたことがわかります。3つの寄進品のうちのひとつがこの図書館にあります。

セリミエ・モスクの方向に正門があり、窓を改造した扉を開けて中に入ります。ギョデネ石と呼ばれる石材が使われており、鉛で覆われたドームがかかっています。現在は書作品コンヤ地域局の管轄となっています。

図書館には3000点以上の手書きの書、8000点以上もの印刷物作品が収められています。手書きの書作品はすべてデジタル化されており、研究者に利用されています。図書館は週末以外の平日開館しています。

アラアッディン・モスク

アナトリア・セルジューク朝最大で最重要モスクのうちのひとつであるアラアッディン・モスクは、コンヤの中心地にあるアラアッディンの丘の上に建てられました。セルジューク朝スルタン、リュクネッディン・メスッド1世（1116－1156）の時代に着工され、アラアッディン・ケイクバード1世の時代に竣工しました。（1221）モスクは、イスラム建築様式で建設されており、その上を木や土で覆っています。40以上ものローマ、ビザンツ時代の大理石柱が見つかっています。黒檀材で「キュンデカル」という木工はめ込み技術が用いられたミンベル（説教師の階段）は、アフラット出身のメンギュ・ベルティが1155年に制作したもので、アナトリア・セルジューク朝の木工工芸の集大成と言えます。タイルで装飾されたミフラーブの前には、やはりタイルで装飾されたドームがあります。正門には建築職人としてムハッメッド・ビン・ハヴラン・エル・ドゥムシュクの名が刻まれています。

モスクの中庭にセルジューク朝スルタンのメスッド1世、クルチアスラン2世、グヤセッディン・ケイフスレヴ1世、リュクネッディン・スレイマン2世、イッゼッディン・クルチアスラン3世、アラアッデイン・ケイクバード1世、グヤセッディン・ケイフスレヴ2世、リュクネッディン・クルチアスラン4世、グヤセッディン・ケイフスレヴ3世の霊廟が、その隣には未完成のイッゼッディン・ケイカヴス1世の霊廟があります。

セラーフェッディン・モスク

12世紀にシェイフ・シェラーフェッディンによって建てられ、1444年にカラオスマンオウル2世・イブラヒム・ベイによって補修が行われました。時と共に痛みが進んだため、1636年にメフメッド・チャヴシュオウル・メミ・ベイが取り壊して新築しました。モスク本体は切石でできており、その上をドームが覆っています。10本の大柱に支えられている大ドームは、南側からも半ドームに支持されています。ミフラーブ（メッカの方向を指す窪み）がある部分は外側に飛び出ています。南側以外の全方向の2階部分には集会場所が設けられています。モスク内部は書道作品や壁画で装飾されており、大理石で作られたミンベル（説教師の階段）やミフラーブは一見の価値がある芸術作品となっています。入り口軒の上には７つのドームが架かっており、昔アザーンの呼びかけを行っていたバルコニーがひとつついたミナレット（尖塔）は、後に増築されたものです。

モスクの南正面に20世紀初頭に取り壊された、シェイフ・シェラーフェッディン廟がありましたが、地域の寄進局によって2010年に再建されました。

アズィズィエ・モスク

ギョデネ石の切石を使って建てられたこのモスクは、オスマン朝末期建築の好例です。1671－1676年にシェイフ・アフメッドが建てたものは火災で焼失したので、1867年にスルタン・アブドゥルアズィズの母、ペルテヴニイェル皇太后が再建したのが今日のモスクです。トルコ風バロック様式で建てられており、窓が門よりも大きく、6本の大理石の柱に支えられた入り口の軒には3つのドームかかかっており、その横の泉亭があり、ゆったりとしたドームがついた2本のミナレットが目を引きます。

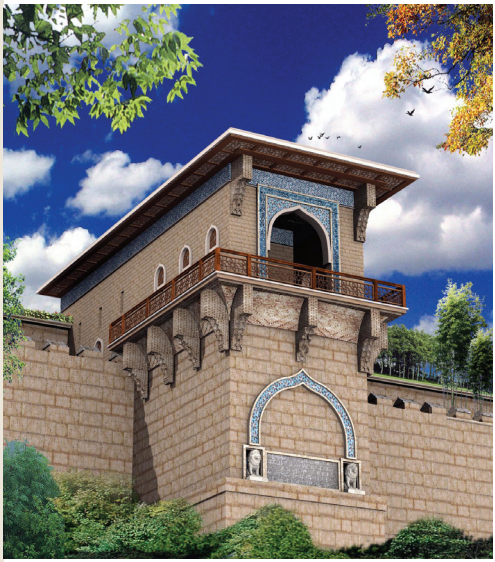
スルタン・セリム・モスク

メヴラーナ博物館に隣接し、スルタン・セリム2世のコンヤ知事時代、1558年に着工し、1567年に完成しました。コンヤにおけるオスマン朝建築の素晴らしい例です。プランとしてはイスタンブルのファーティフ・モスクに似ています。中央にドームを掲げた内部空間は、一方向のみ半ドームで拡張されています。入り口前の軒部分には7つのドームがかかっており、2本のミナレットを持つこのモスクの内部は、壁画で装飾されています。

シェムスィ・テブリーズィー廟とモスク

シェラーレッディン・モスクの北側に位置するシェムス公園内にあります。1510年にエミル・イスハック・ベイが礼拝所とともに補修、拡張し、今日に至っています。礼拝所ないにはシェムスィ・テブリーズィーのものと信じられている霊廟があります。

メヴラーナの哲学人生において重要な位置を占めているシェムスィ・テブリーズィーの霊廟と礼拝所は、コンヤでも最も訪問者が多い場所でもあります。



セルジューク朝の宮殿（東屋）

スルタン・クルチアスラン2世（1156－1192）の時代に建てられ、スルタン・アラアッディン・ケイクバードによって補修され、拡張されたため、別名をアラアッディン・キョシュク（東屋）といいます。2階建ての東屋の壁はタイルや文章が入った帯状のタイルで装飾されています。最近コンヤ博物館局が行った発掘調査で出土したものをもとに、復元計画が進行しています。ブルサ、エディルネ、トプカプ宮殿、特に司法の塔に影響を与えたセルジューク朝の宮殿です。

サーヒブ・アタ複合施設

アナトリア・セルジューク朝の宰相であったサーヒブ・アタ・ファフレッディン・アリが1277年に建てた複合施設の建築家は、ケルックブ・アブドゥッラーです。

複合施設のプランは、北側にモスク、モスクのミフラーブ（メッカの方向を示す窪み）に隣接して建てられ、内部にファフレッディン・アリとその妻、子供たちの霊廟、ハーンキャフ（修道場）が、道路を隔てた向かい側にはツインのハマム（トルコ式浴場）が配置されています。北側に入り口の門があり、その左右には上下に二つづつの小部屋が配置され、下のものは泉亭の役割を果たしています。入り口門の枠装飾には、コーランの中のファーティハ章が書かれています。

複合施設のハーンキャフ（デルギャフ、修道場）の部分は、地域基金局によってサーヒブ・アタ基金博物館に改装され、開館しました。

メラムの果樹園

メラムは、テッケリ山の南東部裾野の谷にできた街です。昔のメラムの果樹園は、市街地から5－6km西から始まりデレまで続いている緑の谷に広がっています。昔からきれいな水や空気、果樹園のすばらしさは旅行記や詩に詠われ、世界中に知られるところとなりました。今日では森に囲まれた、ティーガーデンやレストランなどもある、保養地となっています。メラムではセルジューク朝時代に建てられたメラム・ハマム、メラム橋、タヴス・ババ廟、ハスベイ礼拝所、ダーリュ・フッファズなどが観光地となっています。

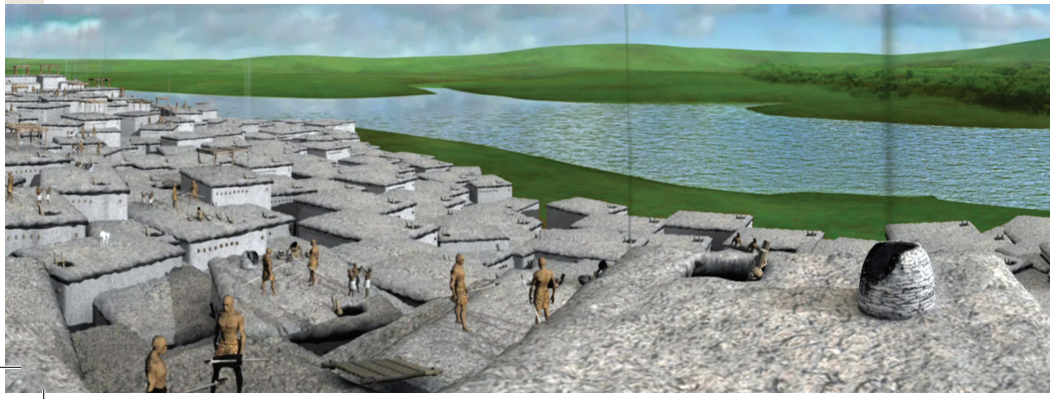
チャタルホユック

コンヤから約35kmの距離に位置するチュムラ郡クチュックキョイ地区にあります。世界でも重要な考古学的遺跡に数えられています。紀元前7000－8000年にまでさかのぼる歴史を持つチャタルホユックは、人類史上初の集落、住宅建

築、神殿など重要な発掘物から、当時の社会生活に関する重要な情報をもたらしてくれます。1958年にジェームズ・メラート、デヴィット・フレンチらの発掘隊によって発見され、1961年に開始された発掘調査は1965年に中断されましたが、1993年に再開され、イギリスの考古学者イアン・ホッダーを隊長とした発掘隊によって続けられています。出土品はコンヤ考古学博物館に展示されています。チャタル・ホユックは2012年にUNESCOの世界遺産に登録されました。この遺跡は休日なく訪れることが出来ます。

ボンジュックルホユック

コンヤのカラタイ郡の中心部に30kmの場所に位置するこの古墳ではProf.Dr.ダグラス・ベアドが表面調査を行い、千年前のものと推定されるものが発掘されています。発掘調査では約1万年前のものとされる、人類が定住生活に移行した頃の円形プランの住宅が発見されました。



キリストゥラ—ギョクイイト

コンヤに55kmのギョクユルト村にあり、キリスト教の聖書にも登場する聖パウロも旅の途中に立ち寄ったアナトリアの都市であるリストラに15kmの場所に位置しています。同時代の文化が広まっていたキリストラ村は、有名な「王の道」上にあり、イコニオン（コンヤ）とプスィディア・アンティオキア（ヤルヴァチ）の間にあります。現在考古学的調査及びクリーニング作業が進行中です。この遺跡は休日なく訪れることが出来ます。

スィッレ

スィッレはアナトリア文明の中でも大変重要で、様々な文化が一同に集まった特別な場所です。スィッレは自然のシルエットやこのシルエットと一体化した遺跡、建築、集落の形態、文化習慣、果樹園や菜園などから、他とは一線を画した集落です。

紀元後327年にビザンツ帝国の皇帝コンスタンティンの母、ヘレナが、エルサレムへ巡礼に行く途中にコンヤへも立ち寄り、初期キリスト教時代に掘られた教会を見かけたことから、ここに教会を建てることを決心し、着工の儀式には自身も参加したと言われています。アヤ・エレナ教会は、何世紀もの間補修が行われ、現在に至っています。また、セルジューク朝やオスマン朝時代のタシュ・モスクをはじめとしたモスク、ハジ・アー・モスク、スバシュ・ハマム、泉、橋など、トルコ・イスラムの作品も多くあります。

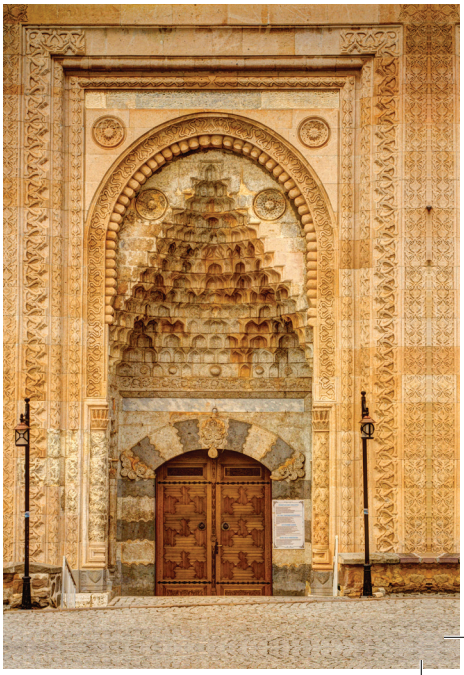
ベイシェヒル

コンヤに約90kmの位置にあるベイシェヒルは、高い歴史的価値を持つ、美しい自然を有する郡です。そして、重要な文化観光の場所でもあります。トルコ最大の淡水湖であるベイシェヒル湖では、ウォータースポーツ、ハンティング、釣り、ネイチャースポーツなど、オルターナティヴな観光の可能性を秘めています。

ヒッタイト時代のエフラートゥン記念泉亭とファスルラル霊園は、重要な観光地です。この作品の他、諸侯国時代、セルジューク朝時代の作品で注目されているベイシェヒルは、セルジューク朝時代の民間宮殿建築の中でも世界唯一の例であるクバダーバード宮殿、木造の柱を持つモスクの最高の例であるエシレフオウル・モスク、タシュ神学校、チフテ・ハマム、ベデステンなど、他とは一線を画した建築作品を有しています。また、湖にも歴史や豊かな自然を有する島々があり、ベイシェヒルの中でも有名な場所となっています。

エシレフオウル・モスク

ベイシェヒルの中心街にある複合施設内の霊廟、モスク、ベデステン、ハマムといった建造物があります。モスクの正門の上にはめられた石碑には、エシレフオウル・セイフェッディン・スレイ



マン・ベイによって、1296－1299年に建てられたと記されています。石材、木材、タイル、レンガの調和が素晴らしいこのモスクは、アナトリアに現存する木造柱に平らな天井タイプのモスクの中でも最大のものです。現在も礼拝に使われており、見学も可能です。UNESCOの世界遺産候補に挙がっています。

ファスルラル記念碑

広大な古代墓地にあるファスルラル記念碑は、70色以上のトーンを持ち、岩塊でできている記念碑の中でも世界最大級です。ヒッタイト時代からあるもので、ファスルラル記念碑は、山の上の神殿の２頭のライオンの間に偉大なる神を表現しています。

クバットーアーバード宮殿

ベイシェヒル湖河畔に1236年にセルジューク朝スルタンのアラアッディン・ケイクバード1世の命で建てられ、今日まで残っている唯一のセルジューク朝宮

殿です。Prof.Dr.ルチハン・アルックが35年間続けてきた宮殿の発掘調査は、現在も進行中であり、出土したタイルや他の物品は、カラタイ博物館に展示されています。トルコ国会によって宮殿の修復が行われる予定です。

エフラートゥンの泉

エフラートゥンの泉は、ヒッタイト時代に建てられた神聖な記念碑的泉です。ベイシェヒルに22kmの場所にあり、空を持ち上げ、地上と空の間の関係を築いている神々が描かれています。湖にゃ博物館局が行った発掘調査の後、環境整備が行われました。

セイディシェヒル

コンヤから90kmの位置にあり、中心街にはこの街の名前になっているホラサン出身のセイイッド・ハールン・ヴェリの霊廟とモスクがあります。セイディシェヒル - アンタルヤ道を20km行ったところにトゥルナズテペ洞窟があり、遊歩道と照明が整備され、見学できるようになっています。トルコ最大のアルミニウム工場もこの郡にあります。

エレイリ

コンヤから145kmに位置し、ウル・モスク、リュステム・パシャ・キャラバンサライなどの重要な建造物があります。エレイリ博物館には、この地方の歴史的、民俗学的作品が展示されています。

ハルクプナル

コンヤから168kmに位置する、アイドゥンケント村にあるヒッタイト時代のイヴリスの岩のレリーフは、農業の様子を表した世界最古の記念碑です。トゥワァナ王国の中心地であったこの地方は、その歴史や自然の美しさで注目されています。

カラプナル

コンヤから94kmに位置し、戦略的な場所にできた、農業や畜産が盛んな大変古い集落です。この郡はトルコの浸食地帯にあります。長年にわたる対策の結果浸食は食い止められ、環境への認識も高まり、その効果は持続しています。

この郡は大変変わった地質であり、地質学者にとっては、自然の観察、研究所のような場所となっています。郡には「オブルック」と呼ばれる地滑りが起きた場所が多くあります。また、カラプナル郡には、世界でも例がない珍しい水質のメケ、アジュギョルといったカルデラ湖など必見の自然があります。

スルタン・セリム・モスク複合施設

この複合施設は、セリム2世がコンヤ知事だった時代に建設されました。モスク、キャラヴァンサライ、ハン、ハマム、泉、貧民救済所、神学校、市場、粉ひき所があります。モスクは1514年にヤヴズ・スルタン・セリムの時代に着工し、1563年に竣工しました。

掘削地下都市

ホタムシュに40km、カラプナルに30kmの場所にあります。敵の攻撃などの危険に備え、市民が一時的に避難し、集団生活が送れるように、いくつもの地下都市が掘られました。この地下都市には馬小屋、乾物倉庫、教会、シュラ(発酵ぶどう汁、ワインの前状態)づくり所、食品を潰す石、貯水池、墓地などがあります。ビザンツ時代の紀元後7世紀以降に始まった迫害のため、この地方のキリスト教徒は地下に潜って生活し始めました。

オブルックラル（単数：オブルック）

オブルックラルは、カルスト溶解、あるいはカルスト穴の天井が崩壊してできたものです。深さは数メートルから始まり、数百メートルのものもあります。シリンダー型になったものや、深く洞窟につながっているものもあります。水が溜まっているものや、一酸化炭素と硫黄ガスが溜まっているものがあります。

カラプナルのオブルックラルは以下の通りです。クチュック・セキズリ高原、コルジャ高原オ、アクオレン、プトゥル、ヤルム、チフトゥレル、アクオブルック、ディクメン・オブルウ、ビュユック・フィダンジュ・オブルウ、ハマム・オブルウ。

メケ・カルデラ湖

「世界のナザール・ボンジュウ（妬み除けの目玉のお守り）」と名付けられたメケ・カルデラ湖は、カラプナルから南東8kmにあります。世界でも類を見ない地質で、２回もの爆発でできたカルデラ湖です。素晴らしいパノラマ、珍しい地質構造と野鳥を有する自然の奇跡です。また、この地方にはアジュギョル湖、チュラル湖、メイル湖といった一見の価値があるカルデラ湖もあります。

アクシェヒル

コンヤから135kmの場所にあり、頓智と英知に富んだ答えで、トルコ人のみならず世界にその名を知らしめたナスレッディン・ホジャの霊廟がある街です。この郡にはまた、セイッド・マフムード・ハイラーニ廟、祖国解放戦争の西前線司令本部博物館、考古学博物館、タシュ・モスク、フドゥルルック保養地、教会、アクシェヒル湖など、歴史や観光の面でも楽しめる場所があります。

この郡では7月5－10日の間、国際ナスレッディン・ホジャ追悼・ユーモア祭が開催されます。

ウルグン

コンヤから90kmの位置にあり、セルジューク朝、諸侯国、オスマン朝時代から、数多くの歴史的建造物が残っています。ラーラ・ムスタファ・パシャ・モスク（クルシュンル・モスク）やキャラヴァンサライは最も重要な歴史的建造物です。ウルグンには、アナトリア・セルジューク朝時代から続いている、世界的に有名な温泉があり、時折メヴラーナも行ったと言われており、現在でも利用されています。

コンヤの温泉

ウルグン温泉

ローマ、ビザンツ、セルジューク朝、オスマン朝の人々もこの温泉を利用し、様々な施設が設置されました。42度の源泉は、何の調整もせずにそのまま使われています。このため、治療効果が高く、無色、無臭で自然な味がする温泉水は、麻痺、座骨神経痛、目、リューマチに効果があります。

イスミル温泉

コンヤ—カラプナル道上50kmのイスミルという小都市にあります。施設は温泉民宿の形式で営業しています。

ホユック・キョシュク温泉

コンヤから85kmの位置にあり。温泉はプールと温泉民宿の形式で営業しています。

歴史散策地

ベデステン・バザール

ベデステン地区で、コンヤの歴史を反映する、40の通りと2687件の店があります。カプ・モスクはアズィズィエ・モスクがある歴史的ベデステンで、メヴラーナが散歩した通りを散歩し、お買い物をお楽しみいただけます。主に服飾、インテリア・ファブリック、アクセサリーなどの店舗があるベデステンは、特に結婚を控えたカップルやその家族が立ち寄る場所です。

女性たちのバザール

（カドゥンラル・パザル、メリケ・ハートゥン・バザール）

アズィズィエ・モスクの南側にある屋内バザールです。毎日開店しています。昔は女性たちが果樹園や庭で自分たちが栽培した作物をここで売っていたので、「女性たちのバザール」とい

う名がつきました。今日も中庭の中央で新鮮な野菜や果物が売られています。中庭の端に並んだ店では、様々な食品の他、コンヤ特産のカビチーズもあります。

メンギュチ大通り
（コンヤ文化通り）

メヴラーナ博物館の南側、コンヤの伝統民家がオリジナルに基づいて修復され、観光できるようになった地区です。文化通りやその周辺には伝統的なインテリアで、セルジューク朝やメヴレヴィー料理や、コンヤ地方料理を味わっていただけるレストランや、炭火で炒った、メネンギチ（テレビンノキ）・コーヒーを出すカフェや、ステンドグラス、タイル、絵、マーブル、フェルトといった手工芸品が展示されているアートギャラリーなどでは、様々な文化的イベントが開催されています。

歴史的ハン（キャラバンサライ）やハマム

ザザドゥン・ハン

コンヤの22km東北に、オルタコナック地区があるコンヤ - アクサライ道を4km北に行った、トメッキ地区へ続く道上にあります。アナトリア・セルジューク朝の宰相で建築家でもあったサーデッティン・キョペッキによって、1235－1236年の間に建てられたハンの建設には、ローマやビザンツ時代の遺跡の石材も流用されています。中庭（夏用）と屋内（中庭なしの冬用）の部分が合体してできた中庭つきの半屋内ハンです。南側正面の屋内空間近くにある屋外部分のボリュームある正門の壁に取り付けられた段を上って行く、素晴らしい石の装飾が施されている礼拝場があるハンは、寄進局が管理しています。ザザドゥン・ハン以外に、コンヤ県にはホロズル・ハン、オブルック・ハヌ、ドクズン・ハヌ、ホジャジハン・ハヌ（アクヨクシュ・ハヌ、ディビデキッキ・ハン）、クズルオレン・ハヌ、カドゥンハヌ、ドクズン・デルベント・ハヌなどがあります。

マフケメ・ハマム

シェラーフェッティン・モスクとシェムスィ・テブリーズィ・モスクの間にあり、カラマンオウル2世イブラヒム・ベイ（1423－1464年）の時代に建てられました。女性用と男性用の部分があるハマムは、現在でも利用されています。

シファー・スルタン・ハマム

サーヒップ・アタ・ファフレッディン・アリによって1258－1283年の間に、サーヒップ・アタ複合施設とともに建設されました。ダブルになったハマムのプランで、現在でも利用されています。

その他重要な霊廟

アテシュバズ・ヴェリ廟

メヴラーナの調理長で、1285年に亡くなったユスフ・ビン・イッゼッディンの霊廟は、メラム郡、陸軍将軍トゥラル地区で、メラム新道上のコンヤ教育研究病院の裏にあります。切石が使われており、8角形の本体とレンガが積まれてできた8角形ピラミッド形のとんがり屋根は、セルジューク朝のクラシックな霊廟です。

サドゥレッディン・コネヴィ廟

有名な学者であったサドゥレッディン・コネヴィ（1207－1274年）の霊廟は、メラム郡、シェイフ・サドゥレッディン地区、トゥルグットオウル地区にあります。1274年に建てられたモスク、図書館、泉亭、ザーヴィエ（修行場）から構成される複合施設内、モスクの東側の中庭にあります。霊廟の形態は、セルジューク朝の霊廟に類似しています。本体は4方が開放的で、土台は加工された大理石でできており、その上には木造格子のとんがり屋根が載っています。開放的な霊廟の中で、今日まで残っている唯一の例です。

ギョメチ・ハートゥン廟

ムサッラ墓地内にあります。セルジューク朝の霊廟の中でも一風変わった例です。地下、尖ったアーチ、トンネル型天井のあるエイヴァンと呼ばれるホールのような空間から成っています。大部分は切石で、その他はレンガを積み重ねてできています。城塞のような外観を呈しています。エイヴァンのアーチはモザイクの装飾が施されています。霊廟はアナトリア・セルジューク朝スルタン、リュクネッディン・クルチ・アスランの妃、ギョメチ・ハートゥン4世のものであると言われています。

重要な公園

蝶の谷

コンヤには、サッカー場56個分の広大な敷地を有する公園があり、毛虫が蝶になるまでの物語を奇跡的に再現しています。地下生物のトンネル、爬虫類のウィンドー、蝶や昆虫のミュージアム、人口スケート場など、その他にも多くのアクティヴィティを提供しており、楽しく、アドレナリンいっぱいの体験がコンヤで貴方を待ち受けています。

80日間世界一周公園

メラム郡、ドゥルンダイ地区、ドゥットル大通りにあります。役8万㎡の敷地に作られた公園は、3つのセクションから成っています。「綿あめ」のセクションおとぎ話の主人公たちの模型が、「T-Reks」のセクションには恐竜の模型が、「ジハヌ・トゥルク（トルコ人の世界）」のセクションには歴史的なトルコの記念碑の模型が展示されています。

日本庭園

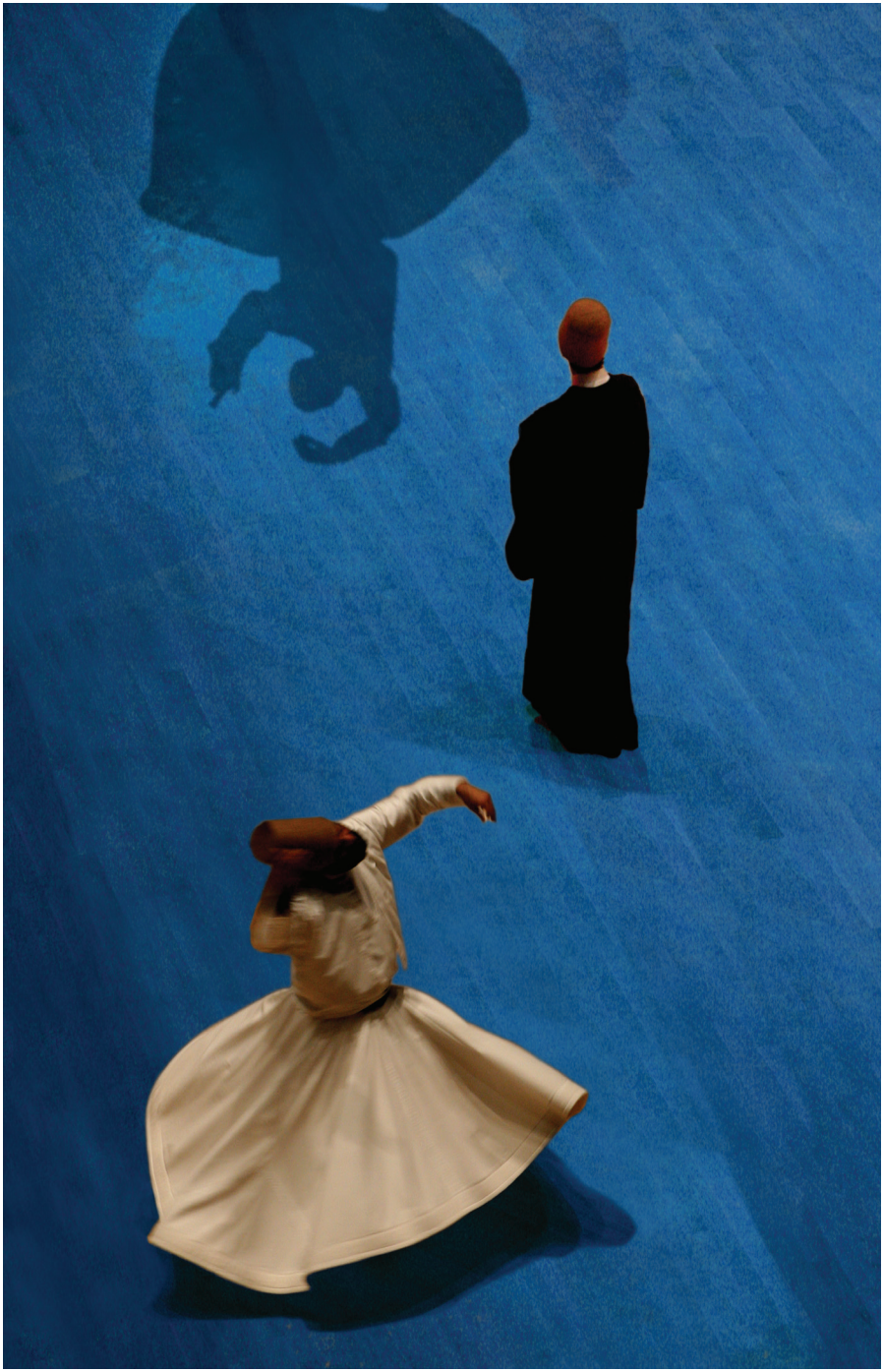
セルチュクル郡、サンジャック地区イェニイスタンブル大通り上にあります。約3万㎡の敷地にコンヤと京都の間の姉妹都市の関係があることから設立されたこの公園では、いくつかの日本建築を見ることが出来ます。

文化公園

コンヤの中心街、アラアッディンの丘、インジェ・ミナレとカラタイ博物館の中間地点にあります。様々な時期に展覧会、カンフェランスなどが開催され、県の市民図書館、夏季にはコンサートが行われる劇場、各言語に翻訳されたマスナヴィーや、他の文化的出版物を販売している店舗「コメック」、カフェテリアがある文化公園は、コンヤで最も活気あるエリアのうちのひとつです。

文化活動

メヴラーナとその家族がコンヤへ移住したことを記念する式典（5月3－5日）
千の息、ひとつの声、国際トルコ語演劇を上演する国々フェスティバル。（5月）
アタテュルクのコンヤ訪問記念日（8月3日）
国際コンヤ神秘音楽フェスティバル（9月22－30日）
国際世界信仰写真コンクール（10月）
クサ - ジャ（短い）国際学生フィルム・フェスティバル（10月）
アテシュヴァズ・ヴェリ・料理文化賞（10月）
メヴラーナの命日・国際追悼式典（12月7－17日）
セマー実演。メヴラーナ週間（12月7－17日）以外、年間を通して毎週土曜メヴラーナ文化センターで、夏季は木曜にメヴラーナ博物館の庭園で無料で見学できるセマーの実演が行われています。



United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

Intangible Cultural Heritage

Convention for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage

The Intergovernmental Committee for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage has incorporated

The Mevlevi Sema ceremony

in the Representative List of the Intangible Cultural Heritage of Humanity upon the proposal of Turkey

Incorporation in this List contributes to ensuring better visibility of the intangible cultural heritage and awareness of its significance, and to encouraging dialogue which respects cultural diversity

Date
4 November 2008

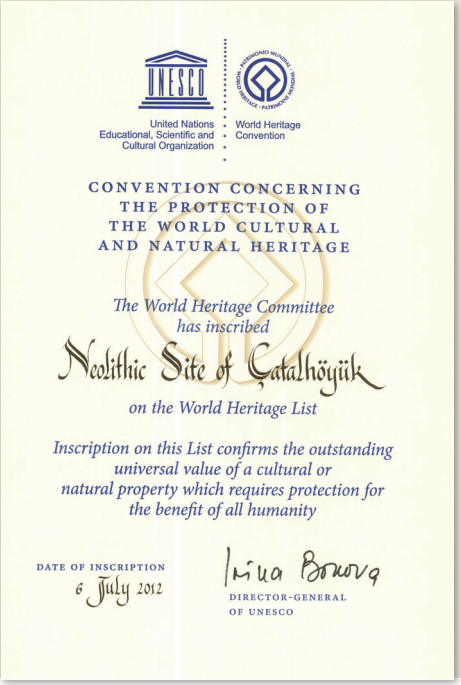
Director-General of UNESCO

ユネスコ世界遺産、コンヤ

永久リスト

メヴラーナ・セマーの儀式（2008年）

チャタルホユック（2012年）



United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

World Heritage Convention

CONVENTION CONCERNING THE PROTECTION OF THE WORLD CULTURAL AND NATURAL HERITAGE

The World Heritage Committee has inscribed

Neolithic Site of Çatalhöyük

on the World Heritage List

Inscription on this List confirms the outstanding universal value of a cultural or natural property which requires protection for the benefit of all humanity

DATE OF INSCRIPTION
6 July 2012

Irina Bokova
DIRECTOR-GENERAL OF UNESCO

ノミネート

コンヤ・セルジューク朝の首都:2000年
シェレフオウル・モスク:2011年
エフラートゥン・プナル・ヒッタイトの記念碑的泉:2014年
アナトリア・セルジューク朝神学校（インジェ・ミナーレ神学校とカラタイ神学校）:2014年
トゥズ・ギョル（塩湖）特別環境保護地域:2013年

コンヤの手工芸

コンヤのキュンデキャリ（はめ込み木工細工）、シルクカーペット、キリム、網づくり、金糸、銀糸刺繍、タイルといった、重要な手工芸が継承されており、ハット（アラビア語カリグラフィー）、テズヒップ（書の周りの飾り模様）、エブル（マーブル）などの伝統工芸も盛んです。

コンヤ料理

コンヤは長い歴史がある首都文化を有し、メヴレヴィー教団の中心地であることから豊かな料理文化が発達しました。現在でも家庭やレストランで提供される料理のいくつかをご紹介します。

スープ:オクラ・スープ、アラバシュ・スープ、エリシテ・スープ、テルフン・スープ、トゥトマチ・スープ。カラムック・スープ、ヨーグルト・スープ。

肉料理:フルン・ケバブ、チェビチ、エトゥリ・エキメッキ、トパラック・キョフテ、チュルラマ、ドゥウン・ピラフ。

野菜料理:ひき肉入りブドウの葉ドルマ、ひき肉入りドルマ、ナスのムサッカ、ボラーニ、チョプレメ、ひき肉入りナスのロースト、ジャガイモのオーブン料理、ズルビエ。

ボレッキ（トルコ・パイ）:サチ・ボレイ、ス・ボレイ、ひき肉、チーズ入りボレッキ、カトメル。
スイーツ:サジャラス、アーモンドのヘルヴァ、セモリナのヘルヴァ、ホシュメリム。

文学におけるコンヤ

5つの都市

コンヤは、草原の子供だ。隠された不思議な美しさを秘めている。草原は自分自身に蜃気楼を起こさせるのが好き。コンヤにはどの道を通って入っても、蜃気楼に遭う。この土地の地平線にはいつも、夢の中のような光が飛び交っている。涼しい木陰や泉は、乾いた身体に遠くから笑いかける夢のよう。道すがら、消えては現れ、大きくなったり、広がったりしながら、最後にはセルジューク朝スルタンの街にたどり着いている。

外部からこれほど隠れているコンヤは、内側からは嫉妬心をむき出しにする。強固な精神を持ち、一人で暮らすことを好み、外観は質素で内面は豊かな、中央アナトリアの人々に似ている。それをつかまえるためには、時間や季節の中にたっぷりと浸かる必要がある。それでもそのとき、泉から流れるチャルバーの水音がささやく秘密、装飾豊かな扉の向こうの、刺繍が施されたシーツの中にしゃがみ込んだ、いにしえの女性たちを思い起こさせる、セルジューク朝記念碑の偉大なる夢を、唄を、舞踏音楽を、そしてこの遊びに疲れた肌を感じることができるだろう。。。

そこで、ランプのゆらめく光に回り、変化し、漏れてくる、まるで物質的な存在から遊離したこの人々は、本当に愛の殉死者になった。そして本当に清らかな魂になって、広げられた両腕と、すべてを受け入れて垂れた頭で、回りながらセマーを踊っていた。

アフメット・ハムディ・タンプナル

KÜLTÜR PARK
ALAADDİN TEPESİ ve CAMİSİ
ALAADDİN BULVARI
KONYA BÜYÜKŞEHİR BELEDİYESİ
HACI VEYİS ZADE CAMİ ve KÜLLİYESİ
TARİHİ DEDE BAHÇESİ
TACUL VEZİR TÜRBESİ
FATMA HATUN FORFUNDE SÜT TEKKESİ
ALGAV ZAVİYESİ ve HAVALİKİYE MEDRESESİ
SELİMİYE FIRINI
YAZARLAR BİRLİĞİ EVİ
SARAMANE HEZİR İLYAS MESCİDİ
KARATAY MEDRESESİ
AK CAMİ
BAŞÇARŞI SEBİLİ
İNCE MİNARE MEDRESESİ
İ.T.KILIÇARSLAN KÖŞKÜ
HAVA ŞEHİTLİĞİ
ZİNDANKALE
GAZİ MUSTAFA KEMAL İLKÖĞRETİM OKULU
MERKEZ BANKASI
SANAYİ MEKTEBİ
ŞERAFETTİN CAMİ
İPLİKÇİ CAMİ
PTT
ZİRAAT BANKASI
KONYA VALİLİĞİ
ESKİ OSMANLI BANKASI
HALK EĞİTİM MERKEZİ BİNASI
KADI MURSEL CAMİ
ZENBURİ MESCİDİ
ŞEMS CAMİİ
MÜZİ HİMAYUN
HOCA HASAN CAMİİ
ATATÜRK EVİ ve MÜZESİ
ABDULMUMİN MESCİDİ
NASUHBEY DARUL
TAHİR PAŞA CAMİİ
SIRÇALI MEDRESE
ŞEKER FURUŞ CAMİİ
KAPU CAMİİ
BEDESTEN
GAZİ LİSESİ
AMBER REİS CAMİİ
ATATÜRK ANITI
DEVLET TİYATROSU
SAHİP ATA CAMİİ
SAHİP ATA KÜLLİYESİ
KONYA ATATÜRK STADYUMU
Orman Baş Md.lüğü
DEMİRYOLU CD
ŞEFİK CAN CD
DR.M.H.BAYBAL CD
KEMERLİ CD
HAŞTAHANE CD
RÜŞEŞAT CD
SULTAN ŞAH CD
VATAN CD
ABDÜLEZEL PAŞA CD
SULTAN CEM CD
KARABEKİR CD
AMBERREİS CD
ATATÜRK CD
SAİT PAŞA CD
YAVUZ SELİM CD
LARENDE CD
FURGAN DEDE CD
SAHİPATA CD
MUZAFFER CD
SIRÇALI MEDRESE CD
HARMANLAR CD
UZUN CAMİ
BARUTHANE
KARAKURT CD
TAŞKAPI MEDRESE CD
SAHİBATA CD
TEVFİKİYE CD
BAŞARALI CD
MEVLANA CD
ŞERAFETTİN CD
ŞEMS CD
CİHANGİR CD
SULTAN VELED CD
ANKARA CD
DOĞANLAR CD
YALI İZZETBEY CD